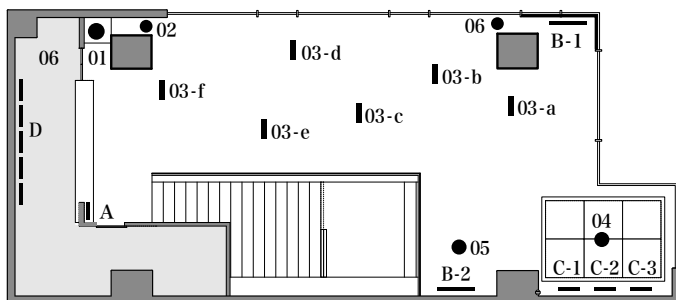


山添 潤 彫刻展

YAMAZOE JUN STONE SCULPTURE WORKS

出品作品リスト



- 01 | 残像 -棲物-
2013年 h210×w200×d330mm 大理石
- 02 | 気配 2012-II
2012年 h185×w155×d220mm 小松石
- 03 | 残像 -柱刻-
-a 2012年 h1480×w270×d160mm 大理石
-b 2012年 h1430×w290×d220mm 大理石
-c 2012年 h1460×w290×d220mm 大理石
-d 2012年 h1430×w290×d225mm 大理石
-e 2012年 h1490×w280×d220mm 大理石
-f 2012年 h1455×w290×d210mm 大理石
- 04 | 刻 2013
2013年 h85×w100×d110mm 大理石
- 05 | 残像
2013年 h700×w170×d170mm 大理石
- 06 | 気配 2012-I
2012年 h160×w160×d170mm 小松石

*1階入り口部分(外側から向かって)

- 中 | work 2012-a
右 | work 2012-b
左 | work 2012-c
2012年 h120×w100×d125mm 大理石

- A | drawing 2013 Q-I
2013年 h370×w445mm 紙に鉛筆

- B |
-1 drawing 残像 2012 2012年 h1050×w785mm 紙に鉛筆
-2 drawing 残像 2013 2013年 h1050×w785mm 紙に鉛筆

- C |
-1 drawing 2012 S-II 2012年 h500×w500mm 紙に鉛筆
-2 drawing 2013 S-II 2013年 h500×w500mm 紙に鉛筆
-3 drawing 2012 S-I 2012年 h500×w500mm 紙に鉛筆

- D | drawing 連
1~5 2013年 h370×w445mm 紙に鉛筆

90年代半ばより石彫を手掛ける山添潤(やまぞえ・じゅん/京都府生まれ・1971~)は、制作・発表のベースを関東に構えながら、近年では2009年の個展(アートスペース虹・京都)開催や「Art Court Frontier #7」(Art Court Gallery・大阪)への参加、2011年の個展(ギャラリー揺・京都)開催など、これまでに関西でも定期的な発表を続けています。

山添は御影石や大理石などの大きな塊を前に、具体的なカタチや完成形を目指すことなく、ノミやタガネによって石を打ちます。

その一打一打は山添の身体を介した素材(目の石という存在)との対話であり、無数のノミ痕は積み重ねられた対話の長さや密度を物語るといえます。また、徐々に浮かび上がるそのカタチは、山添を介して石より発せられた不定形な声のようでもあります。

自身の身体と思考、無意識と自意識の狭間にとどまり(あるいはそれらを高速で反復しながら)、山添と石はいつしか然るべきカタチを見だし、やがてそこに明確な量塊と臍げなカタチを持つ「存在」を結びだします。また、その表情は光や時間のうつろい、鑑賞者の視点の変化によって、より曖昧な存在として自立します。

本展は「6本の石柱」と「鑑賞者」と「空間」によって構成される、山添潤の新作を発表する機会となります。

無垢の石柱を含む大理石に見る六様態には、山添と石の対話の展開を見るとともに、然るべきカタチへの模索の可能性を感じる事が出来るのではないのでしょうか。

作家略歴

山添 潤 YAMAZOE JUN

1971 京都府生まれ
1995 KOBATAKE工房修了

- 2004 個展 ギャラリー4GATS(東京)
2005 個展 ギャラリー砂翁(東京)
2006 Gwalior国際石彫シンポジウム(インド)
個展 アートスペース虹(京都)
個展 アトリエKアートスペース(神奈川)
2008 個展 トキアートスペース(東京)
Gwacheon国際石彫シンポジウム(韓国)
2009 個展 アートスペース虹(京都)
Art Court Frontier #7 Art Court Gallery(大阪)
2010 個展 メタルアートミュージアム光の谷(千葉)
2011 雨引の里と彫刻2011(茨城) ['01、'03、'06、'08]
個展 ギャラリー揺(京都)
2013 石彫の現況2013(東京)

【statement】

6本の柱状の石を置く。

失われゆくもの。作りだされるもの。

その狭間で揺れている、6本の石。それを包みこむ空間。

その場所に立った時、彫刻の存在を感じることが出来ればと思っている。